

別紙 1

平成 26 年度教育課程研究指定校事業追加募集公募研究課題

平成 26 年度における国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業の以下に掲げる公募研究課題（以下、「公募課題」とする。）について、追加募集を行います。

なお、中学校には中等教育学校の前期課程、高等学校には中等教育学校の後期課程を含みます。

【公募課題 1】 幼稚園教育に関する研究課題

【公募課題 2】 各教科等に係る研究課題

小学校：国語②，総合的な学習の時間

中学校：技術・家庭（技術分野），外国語，特別活動

高等学校〔共通教科〕国語，地理歴史，公民，理科①，保健体育，工芸，
書道，外国語，情報，特別活動

〔専門教科〕農業，工業，商業，水産，家庭，看護，情報，福祉

【公募課題 3】 学校全体で取り組む研究課題

（1）伝統文化教育（※中学校，高等学校，特別支援学校（小学部を除く））

（2）へき地教育

（※各教科等に係る研究課題のうち，高等学校については，現時点では平成 27 年度の新規公募の予定はありません。）

公募課題 1 幼稚園教育に係る研究課題

幼稚園教育要領第 2 章に示す領域のねらいの実現状況及び課題等を把握し，その趣旨等を実現するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

◆ 研究期間：1 年間

◆ 実践研究の背景

- 幼児の自発的な活動としての遊びは，心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。幼稚園教育においては，その遊びを通しての指導を中心として幼稚園教育要領の第 2 章に示す領域のねらいが総合的に達成されるようにすることが重要である。
- 幼稚園教育は義務教育及びその後の教育の基礎を培うものである。幼児の遊びの中の学びの芽生えを理解し，小学校教育への見通しをもってその芽を引き伸ばすために必要な活動を促す適当な環境を計画的に設定することが必要である。
- こうした幼稚園教育の基本をしっかりと踏まえた上で行われる実践を通して，幼稚園教育要領のねらいの実現状況等を把握することは，今後の教育課程や指導方法等への課題の把握やその改善へとつながるものである。

◆ 実践研究の目的

本研究では，幼稚園教育要領の領域に示されたねらいの実現状況，課題等を把握するために調査研究に取り組み，今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。

◆ 実践研究の内容等

幼稚園教育要領の第2章に示す5つの領域のねらいの実現状況を把握するため、5歳児の抽出幼児の観察を継続して行い、その記録を通して下記の5つの領域の実現状況を分析するとともに、今後の課題を明らかにする。また、実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善へとつなぐ。

- 領域「健康」 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
- 領域「人間関係」 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
- 領域「環境」 周囲の環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
- 領域「言葉」 経験したことや考えたことなどを自分なりに言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
- 領域「表現」 感じたことや自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

公募課題2 各教科等に係る研究課題

【小学校】

新学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：1年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 新学習指導要領実施3年を経て、各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による児童の確実な理解、能力の定着が求められている。
 - また、新学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、児童の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
 - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

国語	②全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当） <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の活用を図る指導方法等の研究（下記の(ア)～(イ)から一つ又は複数を選択すること） (ア)全国学力・学習状況調査の調査問題そのものや授業アイデア例を実際の授業に位置付けた単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究 (イ)B問題に係る課題を基にし、習得したことを活用して思考力や判断力、表現力を高める単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究（例：記述力）
総合的な学習の時間	○協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究

【中学校】

新学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：1年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 新学習指導要領実施2年を経て、各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による生徒の確実な理解、能力の定着が求められている。
 - また、新学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
 - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

技術・家庭	<p>【技術分野】</p> <p>①技術分野の思考力・判断力・表現力等に該当する、「生活を工夫し創造する能力」の育成を、3年間を見通して計画的に育成するための方策と、育成状況の評価の在り方について</p> <p>②多様で高度な技術（technology）が身近な生活で利用されている中で、今後の社会で活用できる技術（technology）に関する重要な概念の明確化と、その習得を図る指導と評価の在り方について</p>
外国語	<p>○「読むこと」の領域において、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら内容を理解する能力を育成するための指導と評価に関する研究開発</p> <p>○「書くこと」の領域において、文と文の順序や相互の関連に注意を払いながら全体として一貫性のある文章を書く能力を育成するための指導と評価に関する研究開発</p>

特 別 活 動	<p>①新学習指導要領に「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動の充実」が新たに示されたことを踏まえ、思考力・判断力・実践力（表現力と実行力）を育む学級活動における話し合い活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> <p>②共生社会の担い手として求められる社会に参画する態度や自治的能力を育む生徒会活動又は学校行事における集団活動の指導方法及び評価方法の工夫</p>
---------	---

【高等学校（共通教科）】

新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成、指導方法等の工夫改善を中心とする生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 新学習指導要領の実施に伴い、その趣旨を踏まえ、各教科等の指導において、生徒の学習意欲を向上させる授業の工夫改善と、関心・意欲・態度の高まり等を適切に評価することが必要である。
 - また、新学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
 - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

国語	<p>◇次の課題について、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容についての研究に取り組むこと。応募に際しては、平成26年度、27年度に研究対象とする学年（年次）、科目をそれぞれ明記すること。なお、研究対象は、平成25年度以降、第1学年に入学した生徒とする。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の学習指導と学習評価の工夫改善（必ず、両方を取り上げ、偏りがないようにすること。）</p> <p>※なお、以下の点については必須とし、研究成果等の提出を随時求める場合があることに留意して応募すること。</p> <ul style="list-style-type: none">・研究の対象とした科目については、学習指導要領の各科目（「国語総合」の場合は当該領域）の指導事項（内容の(1)）の全てを研究対象として取り上げること・学習評価については、目標に準拠した、評価規準に基づく、観点別学習状況の評価を行い、評価を指導の改善に生かすことに取り組むこと。
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・教材として、多様な「表現メディア」（この語の定義については、学習指導要領解説国語編 p.27 を参照のこと。）を取り上げること。 ・各教科等と連携した、言語活動の充実に資する言語能力の育成に取り組むこと。
地 理 歴 史	○世界史・日本史・地理関係科目の相互の連携を図り思考力を育む授業実践の研究
公 民	<p>○社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を成長させ、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めさせる手立てとして行われる課題追究的な学習に関する具体的な指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)(イ)から一つ又は両方を選択すること）</p> <p>(ア)「現代社会」の内容「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」において、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などの分野で「幸福、正義、公正」を用いて課題を考察させる指導方法等の研究</p> <p>(イ)「倫理」及び「政治・経済」において、各科目の内容に係る諸課題を主体的に考察させる指導方法等の研究</p>
理 科	<p>○基礎を付した科目の指導方法や教材開発</p> <p>基礎を付した科目（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）について、旧課程の I を付した科目との指導方法の違いを明確にし、生徒をより探究的に主体的に学習に向かわせるための教材開発を行う。</p> <p>1年目は、単元を絞って研究を進め、2年目は年間計画を見据えて研究を行う。</p> <p>※研究は、理科全体で行うのが望ましいが、例えば「物理基礎」1科目に限定したものでも可能とする。</p>
保 健 体 育	<p>◇ 体育と保健の両方に取り組むものとする</p> <p>【体育】</p> <p>○「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する」ための指導方法等の工夫改善についての研究</p> <p>（下記の①②のいずれかを選択し、各校で領域を設定すること）</p> <p>①A～H の各領域の指導内容の(1)技能、(2)態度、(3)知識、思考・判断の学習をバランスよく行う指導計画や指導方法等の工夫改善についての研究</p> <p>②運動の楽しさや喜びを深く味わい、学習に主体的に取り組めるようにするための指導方法等の工夫改善についての研究</p> <p>【保健】</p> <p>○個人及び社会生活における健康に関する課題を把握し、その解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を目指して、以下の内容において学習意欲を高めるとともに「知識を活用する学習活動を取り入れた指導方法の工夫」のため指導方法等の研究開発（以下の(1)～(3)から一つ又は複数選択すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1)現代社会と健康 <ul style="list-style-type: none"> イ 健康の保持増進と疾病の予防 オ 応急手当 ・(2)生涯を通じる健康 <ul style="list-style-type: none"> ア 生涯の各段階における健康 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ウ 様々な保健活動や対策 ・(3)社会生活と健康 <ul style="list-style-type: none"> ウ 労働と健康

工 芸	<p>○工芸Ⅰにおいて、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にし、「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図ることで、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成する指導方法等の研究</p> <p>(下記の(ア)(イ)を踏まえて、具体的な研究課題を設定すること)</p> <p>(ア)「A表現」において生徒が主体的に自己や社会的な視点に立って心豊かに発想し構想を練り、意図に応じて創意工夫して制作する活動</p> <p>(イ)「B鑑賞」において生徒が能動的に対象を鑑賞し、多様なものの見方を身に付け、討論や批評し合うことなどを通して、意味や価値をつくりだしたり工芸の伝統や文化についての理解を深めたりする活動</p>
書 道	<p>①「B鑑賞」の授業において、言語活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法の工夫改善についての研究</p> <p>②「A表現」において、「B鑑賞」と関連を図りながら主体的・創造的な書表現の構想と工夫を通して、生徒の関心・意欲を高める指導方法について研究</p>
外 国 語	<p>◇下記の①～④のいずれか一つを選択すること</p> <p>◇①～③については、「話すこと」における学習の状況等の把握に関する研究を含めること</p> <p>①「コミュニケーション英語基礎」、「コミュニケーション英語Ⅰ」又は「コミュニケーション英語Ⅱ」、或いはこれらの内の複数科目において、4技能の総合的なコミュニケーション能力を育成するための言語活動が中心となった英語で行うことを基本とした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>②「英語表現Ⅰ」又は「英語表現Ⅱ」において、「話すこと」及び「書くこと」に関する技能を中心として、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を育成するための言語活動が中心となった英語で行うことを基本とした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>③「英語会話」において、「聞くこと」及び「話すこと」に関する技能を中心として、身近な話題について会話したり海外での生活に必要な表現を使って会話したりする能力を育成するための言語活動が中心となった英語で行うことを基本とした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>④4技能の総合的なコミュニケーション能力を育成するための「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標の設定及び指導方法と学習評価における活用方法に関する研究</p>
情 報	<p>○共通教科情報科の各科目における新学習指導要領の趣旨の実現を目指した学習指導の工夫・改善に関する実践研究</p>
特 別 活 動	<p>○ホームルーム活動「(3) 学業と進路」に示される諸内容、とりわけ「ア学ぶことと働くことの意義の理解」を中核とした活動と、学校行事「(5) 勤労生産・奉仕的行事」のうち「就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験」を中核とした行事との系統的な取組を軸とした、入学から卒業まで見通した特別活動の研究</p>

【高等学校（専門教科）】

新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
 - 新学習指導要領の実施に伴い，その趣旨を踏まえ，各教科の指導において，授業の工夫改善と，学習評価を適切に行うことが必要である。
 - また，新学習指導要領に基づく各教科の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況を把握し，今後の教育課程等の工夫改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的，内容等

本研究では，各教科において，特に教育課程の編成，指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い，その成果を全国に普及し，各学校での指導改善の参考に資する。さらに，新学習指導要領に基づく各教科の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況を把握するため，原則履修科目等で示された課題についても研究に取り組み，今後の教育課程等の改善に資する。
- ◆ 留意点
 - 実践研究に取り組む際には，下記の各教科の内容を中心に取り組むほか，応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。
 - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が，平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は，それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

農 業	<p>◇下記の①②の両方に取り組むものとする</p> <p>○将来の地域産業や地域農業を支える人材育成に資する農業科教育の在り方についての研究</p> <p>①座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善</p> <p>②原則履修科目「農業と環境」における学習状況の把握に資する調査研究</p>
工 業	<p>○新学習指導要領の趣旨等を実現するため，各科目の目標や内容に照らして，指導方法及び評価方法等の工夫改善と生徒の学習の実現状況について把握する研究</p> <p>※生徒の学習の実現状況を把握する研究では「工業技術基礎」を含めること</p> <p>※新設された科目，新たに位置付けられた内容について，指導方法及び評価方法等の工夫改善を含めてもよい</p>
商 業	<p>○新学習指導要領の趣旨等を実現するための指導方法等の工夫改善と学習の実現状況の把握についての研究</p> <p>・研究の対象とする科目には，「ビジネス基礎」を含めること</p> <p>・研究の際には，その科目の内容の一部を重点化して行うこと</p>

水産	<p>◇下記の①②の両方に取り組むものとする</p> <p>○原則履修科目「水産海洋基礎」を通じて、地域の水産業・海洋関連産業を支える人材を育てる指導法等の研究</p> <p>①座学と実験・実習を関連付けた効果的な指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>②新学習指導要領に基づく科目の目標や内容に照らした生徒の学習実現状況の把握</p>
家庭	<p>○専門教科「家庭」の各科目における新学習指導要領の趣旨の実現状況の把握についての研究</p> <p>その際、以下の内容について取り組むこと</p> <p>①衣食住、ヒューマンサービスに関わる生活産業の各分野において、必要な知識と技術を確実に定着させる指導方法や評価方法の工夫</p> <p>②生活の質の向上を図るための課題解決に向けて、創造的な能力と実践的な能力を身に付けさせる指導方法や評価方法の工夫</p> <p>※上記科目に「生活産業基礎」を含めること</p>
看護	<p>○生徒の主体的な学習を通して思考力、判断力、表現力、技能を育成する指導方法等の工夫改善と学習の実現状況の把握についての研究</p> <p>※上記の研究を原則履修科目または新設科目において行うこととする</p>
情報	<p>○専門教科情報科の各科目における新学習指導要領の趣旨の実現状況の把握についての研究</p> <p>※上記科目に「情報産業と社会」を含めること</p>
福祉	<p>○新学習指導要領の趣旨等を実現するため、教科「福祉」における教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の改善に関する実践研究、並びに新学習指導要領に基づく各科目の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況を把握する研究</p> <p>※実現状況を把握する研究では「社会福祉基礎」を含めること</p>

公募課題3 学校全体で取り組む研究課題

新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

(1) 学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：中学校，高等学校，特別支援学校（小学部を除く）
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等

学校の教育活動全体の取組により，児童生徒に伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付けさせるため，各教科等における伝統的な言語文化，歌唱及び和楽器，行事食・郷土食，産業，和服の基本的な着装その他の伝統的な事項に係る指導の連携を図りつつ，体系的な取組による指導効果の向上，学校全体での定着を図る研究を行う。

(2) へき地教育における教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：へき地の小学校又は中学校
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的，内容等

全国的な教育水準の維持向上，新学習指導要領で掲げる指導内容等を効果的に指導するための参考となるよう，へき地学校として指定される学校において，①全国の他のへき地学校で共通する課題の改善，また，②児童生徒の学習状況，集団活動の状況等を踏まえた課題の改善，③へき地校ならではの教育資源を生かした特色ある教育活動の展開のための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善，④その他教育方法，内容の充実に向けた実践研究を行う。

(①～④の一つ又は二つ以上のものに資する指導方法等の実践研究に取り組む。)